

平成21年度 宮城県リスクコミュニケーションモデル事業 実施結果（概要）

【 積水ハウス株式会社 東北工場 】

追加事項

平成22年3月4日

宮城県環境生活部環境対策課

「平成21年度 宮城県リスクコミュニケーションモデル事業 実施結果（概要）【積水ハウス株式会社 東北工場】」に掲載されている以下の内容に関して、追加事項をお知らせします。

<掲載内容；抜粋>

・意見交換会

5 意見交換会の主な内容

(1) 今は少なくなってきていますが、関連工場から黒い煙が出ていることがあると、地区の方から聞いていますが。

→<工場> 協力会社に管理方法を確認したところ、年1回のダイオキシンの検査を行っており、その測定結果は基準値内に収まっているとのことでした。燃やしているのは無垢材の端材と合板だけで、ダイオキシンについては問題ないのですが、朝の立ち上げ時と昼休み後の再運転の時に黒い煙が出てしまう状況です。

→<県> ダイオキシンに関しては焼却炉の規模等さまざまな条件によって規制が定められています。また、測定は数時間かけてサンプリングした煙を分析するものです。ただ、今問題となっている黒い煙とダイオキシンは別の観点から考えなければならないと思います。

→<化学物質アドバイザー> 焼却炉はどうしても燃え始めは炉の温度が低いために不完全燃焼になります。燃やしているものが木材だけということで、黒い煙は主に炭素であると考えられ、普通は人体に影響を及ぼすものではないと思います。

<追加事項>

上記の焼却炉は、平成22年2月26日付けで大崎保健所に廃止届出が提出され、現在使用されておられません。